

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 5 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,260 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+6.5%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,004 円（伸び率+1.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,576 億円（伸び率+8.3%）、薬剤料が 4,674 億円（伸び率+5.9%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 758 億円（伸び率+16.3%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,497 円（伸び率▲0.4%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率▲0.5%）、23.2 日（伸び率+0.9%）、85 円（伸び率▲0.8%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,822 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+174 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 831 億円（伸び幅+42 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 52 億円（総額 657 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,822 億円 (+174 億円)	21 循環器官用薬 (831 億円)	11 中枢神経系用薬 (657 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (544 億円)
0 歳以上 5 歳未満	35.8 億円 (▲0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (15.8 億円)	61 抗生物質製剤 (8.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	85.6 億円 (+5.9 億円)	44 アレルギー用薬 (38.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (16.4 億円)	61 抗生物質製剤 (10.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,327 億円 (+50 億円)	11 中枢神経系用薬 (282 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (199 億円)
65 歳以上 75 歳未満	944 億円 (+16 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (161 億円)	11 中枢神経系用薬 (112 億円)
75 歳以上	1,430 億円 (+103 億円)	21 循環器官用薬 (331 億円)	11 中枢神経系用薬 (245 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (180 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,004 円（伸び率+1.2%）で、最も高かったのは福井県（10,692 円（伸び率+3.2%））、最も低かったのは佐賀県（7,796 円（伸び率▲1.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+3.3%）、最も低かったのは熊本県（伸び率▲1.7%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 758 億円（伸び率：+16.3%、伸び幅：+106 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	69.0%	+3.7%
薬剤料ベース	16.2%	+1.5%
後発品調剤率	67.6%	+1.9%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.8%	+2.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+16.3%	+31.8% (15 歳以上 20 歳未満)	+10.5% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.2%	17.0% (75 歳以上)	11.2% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	670 億円 (+93 億円)	21 循環器官用薬 (185 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (78 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.2 億円 (+0.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (1.5 億円)	61 抗生物質製剤 (1.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	12.4 億円 (+1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (6.2 億円)	61 抗生物質製剤 (2.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	224 億円 (+34 億円)	21 循環器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	167 億円 (+19 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	33 血液・体液用薬 (19 億円)
75 歳以上	260 億円 (+38 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,090 円	1,436 円（岩手県）	916 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+10.5%	+14.5%（徳島県）	+7.3%（熊本県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	69.0%	80.3%（沖縄県）	59.6%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.2%	20.4%（鹿児島県）	13.5%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.6%	78.7%（沖縄県）	61.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.8%	56.6%（沖縄県）	39.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年5月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。